

## 1. はじめに

今回の地震により亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。

1995年1月17日（火）午前5時46分に発生した「兵庫県南部地震」（阪神大震災）は、死者5000名以上という戦後最大の災害をもたらした。家屋の倒壊などによる直接災害はもとより、道路、鉄道、港湾などの交通輸送システム、電気、ガス、水道などのエネルギー供給施設、電話、無線などの情報伝達システムなど、社会活動の基盤をなす様々な施設の予想を越える被災は、都市防災の中で懸念されていた二次災害への対応に大きな支障となり、大きな混乱を招く結果となった。また、被災者の心の傷のケアと生活の再建、地域の経済活動の復活など長期にわたる深刻な問題も我々に突き付けられている。

当社も今回の災害を深刻に受け止め、復旧対応活動の第一歩として被災状況の把握を目的とした調査員を現地に派遣するとともに、新聞、TVをはじめとする情報の収集分析を実施した。本書は、土木構造物の被災状況に着目して情報の整理を行い、速報として取りまとめたものである。

こうした構造物被害の原因を明らかにし、復旧に反映させることは急務であるが、被害の深刻さを勘案すれば結論は、早計に出すべきではなく、今後のより詳細な被災状況調査と慎重かつ十分な議論を重ねる必要があると考える。当社においても、既往の考えに縛られることなく工学的な側面からの調査研究を推進して行きたい。

この大災害に対し、関係者の不眠不休の復旧救援活動が続けられている。当社も建設事業に携わるものとしてその一端を担うべく、誠意と努力をもって対応する所存である。本書が、災害の復旧と今後の防災技術の一助となれば幸いである。